障がい者雇用に積極的な企業にお話を聞きました。

～弘前ドライクリーニング工場～

代表取締役社長
久保 弘之さん

優秀な人材が活躍しています

工場の操業において、人材不足は死活問題です。足りない人材を外国人で補う場合、言語や文化の違い、人材派遣会社への仲介料、長期の就業ができないなどの問題があります。そのため、日本語でコミュニケーションが取れて、長期就業もできる障がい者の方が、会社にとって雇用しやすいという事情があります。

とはいえ、障がい者の雇用には工夫も必要です。当社では個々の障がいへの対処のほか、やる気や能力を育てる評価制度や、障がい者が仕事をしやすい環境作りに力を入れています。

障がい者雇用を始めたのは、知的障がいのある人を知人の紹介で雇用したのがきっかけでした。雇用し始めて間もない頃は「食事の時、食べこぼしたりするから、一緒に食事をしたくない」という従業員も中にはいました。そこで、私も従業員と一緒に食事をして何とかなじんでいこうと思い、毎日昼食を共にしたんです。すると、人間とは不思議なもので、２週間もするとだんだん慣れてくるんですね。周りに子育てを経験した女性が多かったことや、本人の純粋で無邪気な人柄もあって、親子のような一体感が生まれました。

それから障がい者を積極的に雇用し、今では若手から勤続 20 年を超えるベテランまで、10 人以上の障がい者がバリバリと活躍しています。これからも生産性向上や品質保持を実現しながら、いきいきと働ける会社作りに取り組んでいきたいと思います。

◀シーツを素早い動作で機械にセットする藤田さん

やりがいを持って働いています

リネン部門担当　**藤田 雅也さん**

特別支援学校に在学中、当社でのインターンシップを経験し、今年４月に就職しました。現在、タオルやシーツのたたみ作業を担当しています。

仕事には「１時間で 500 枚処理する」といった目標を持って、集中して取り組んでいます。目標を達成すると評価に反映されるので、やりがいがあります。

仕事のやり方やコツは先輩が優しく教えてくれます。たまに津軽弁が分からないことはありますが（笑）、働きやすい職場です。

特別支援学校の後輩の皆さんには「障がいがあっても、仕事は当たり前にできる！」と伝えたいです。インターンシップの経験は就職後も役立つので、積極的に参加するといいと思います。

障がい者を受け入れ、強みに

生産部次長　**乳井 卓也さん**
（従業員のマネジメントを担当）

障がい者の従業員は、個人差はあるものの、真面目でルールに忠実な人が多く、勤勉な仕事ぶりに信頼を置いています。

障がい者の従業員が作業しやすいよう、作業環境を分かりやすく工夫することで、全体の生産性も向上するなどの大きなメリットもあります。

障がいへの配慮が必要なこともありますが、就労支援団体や特別支援学校などに相談して、その人に合ったサポートをしています。当社には 1963（昭和 38）年から障がい者雇用に取り組んできた歴史があるので、会社全体に障がい者を受け入れる土壌が育っています。インターンシップや既卒者の職業体験もいつでも受け入れていますので、やってみたい方の参加をお待ちしています。

▲障がいの有無に関わらず、一緒に作業しています

市役所も始めました。

特別支援学校の生徒が市役所の仕事を体験！

今年度からの新たな試みとして、市役所で特別支援学校高等部の生徒３人のインターンシップを実施。

６月 14 日～ 25 日の約２週間、書類整理、施設の管理、パソコン操作などの仕事を体験しました。

▲弘前公園内で菊を植える鉢の準備

▲事務作業に奮闘中

生徒より

弘前大学教育学部附属特別支援学校高等部
相馬 將馬さん

パソコンで会議の音声を聴いて文章を打ち込む「テープ起こし」に挑戦しました。大変でしたが、自分はパソコンを使う仕事が好きだと発見できました。

県立弘前第一養護学校高等部
相坂 泰喜さん

始めは慌ただしいと感じることもありましたが、慣れると楽しめるようになりました。いろいろな初対面の人と働いたことで、自信がつきました。

県立弘前第一養護学校高等部
成田 穂乃香さん

書類整理の仕事などで、得意な能力を生かせました。市職員の方の指示がわかりやすかったので、戸惑わずに仕事を進められました。

仕事の厳しい面や楽しい面を身をもって体験して、働くイメージができたのではないかと思います。

保護者より

これまで「自立」を意識した子育てをしてきました。今回の職業体験で自立への気持ちがより高まったと感じます。

極度に人が苦手だった子どもが、心を開いて仕事に向き合えるようになり、成長が嬉しいです。

市の障がい者雇用の間口がこれからもっと広がるといいですね。

特別支援学校の先生より

今回のインターンシップは市と学校が連携したことで実現しました。実習は毎日変わる仕事内容ではありましたが、市職員の皆さんのサポートもあり、最後まで責任を持って取り組むことができ、働くことへの自信につながったと感じています。

学校では、あいさつや態度、報告・連絡・相談など、働く上での基本や、職能の技術指導などを行っています。生徒たちには将来、やりがいのある仕事に就き、ワークライフバランスを大切にして社会生活を送ってほしいと思います。

弘前大学教育学部附属特別支援学校高等部
教諭　**千葉 嵩将 先生**

学校では、品出し、組み立て、清掃、農作業など、さまざまな企業実習を実施しています。最近は受け入れ企業が徐々に増え、障がい者雇用に対する企業側の意識も高まっていると感じます。

事務作業は実習の機会が少ないため、市役所での職業体験は貴重な機会です。今回、生徒の仕事ぶりを市職員の皆さんに褒めていただき、期待以上の成果になりました。

生徒たちには働くということを理解し、その達成感や感謝の気持ちを大切にしてほしいです。

県立弘前第一養護学校高等部
進路指導主事　**森 修子先生**

終わりに

これから社会にはばたく特別支援学校高等部の生徒を応援する取り組みは、生徒本人はもちろん、雇用する人、一緒に働く人、家族、学校の先生など、関わる全ての人の思いにより、徐々に花を咲かせています。働く人が皆いきいきと働ける社会であるために、障がい者雇用について前向きに考えてみましょう。